

旭川河川事務所では、地域の方々と協働する各種の取組を進めております。9月～10月の協働事例のいくつかを、季節の話題とともにお届けします。

## ◇ 西神楽地区水防災講習会を開催

災害知識の普及と、地域防災力及び個人防災力の向上を図り、自主防災組織づくりに取り組むことを目的に、旭川河川事務所、NPO法人グラウンドワーク西神楽の皆さん、旭川市及び気象台の協働による「水防災講習会」を開催しました。

中央地区9月22日、聖和地区10月16日、瑞穂地区10月19日、千代ヶ岡地区10月30日の各日とも、地区の住民の方々が参加され、講演や地図を用いた災害図上演習などを実施しました。



## ◇ 水質事故対策訓練の実施

10月9日(水)、石狩川水系栄川樋門地点において、旭川開発建設部、上川総合振興局、旭川市、当麻町、比布町、上川町、東神楽町及び各消防等による「平成25年度水質事故対策訓練」を実施しました。

水質事故の発生時には各機関の緊急出動と迅速な対応・連携により、上水道の取水ができなくなる等の被害を最小限に食い止めます。



オイルマット等の設置訓練



油流入事故の事例（平成25年10月）

## ◇ 永山新川で『生き物思いやり線』を移設

10月27日(日)、「人と野生生物の関わりを考える会」の皆さんとともに、永山新川の管理用通路脇に設置している『生き物思いやり線』をこれから野鳥が飛来する新川の水際へ移設しました。

『生き物思いやり線』(野鳥をそっと見守るフェンス)は、野鳥への餌付けを自粛し、見守る気持ちを育むことを目的に考える会の皆さんと一緒に設置しました。

訪れる方々はフェンスごしに観察を楽しんでいます。



作業中には雨が上がり無事に移設が完了しました。

## ◇ 今秋も旭川市内でサケの遡上を確認

サケ遡上の風景が秋の恒例となった旭川市で、この秋も石狩川や石狩川支川の忠別川で、たくさんの遡上と産卵が確認されています。

石狩川(忠別川支川のポン川と石狩川支川の愛別川)では、平成21年~23年にサケの稚魚が年50万匹放流されており、遡上している大半はこの放流魚であると言われています。



忠別川を遡上するサケたち(平成25年10月)

お問い合わせ先